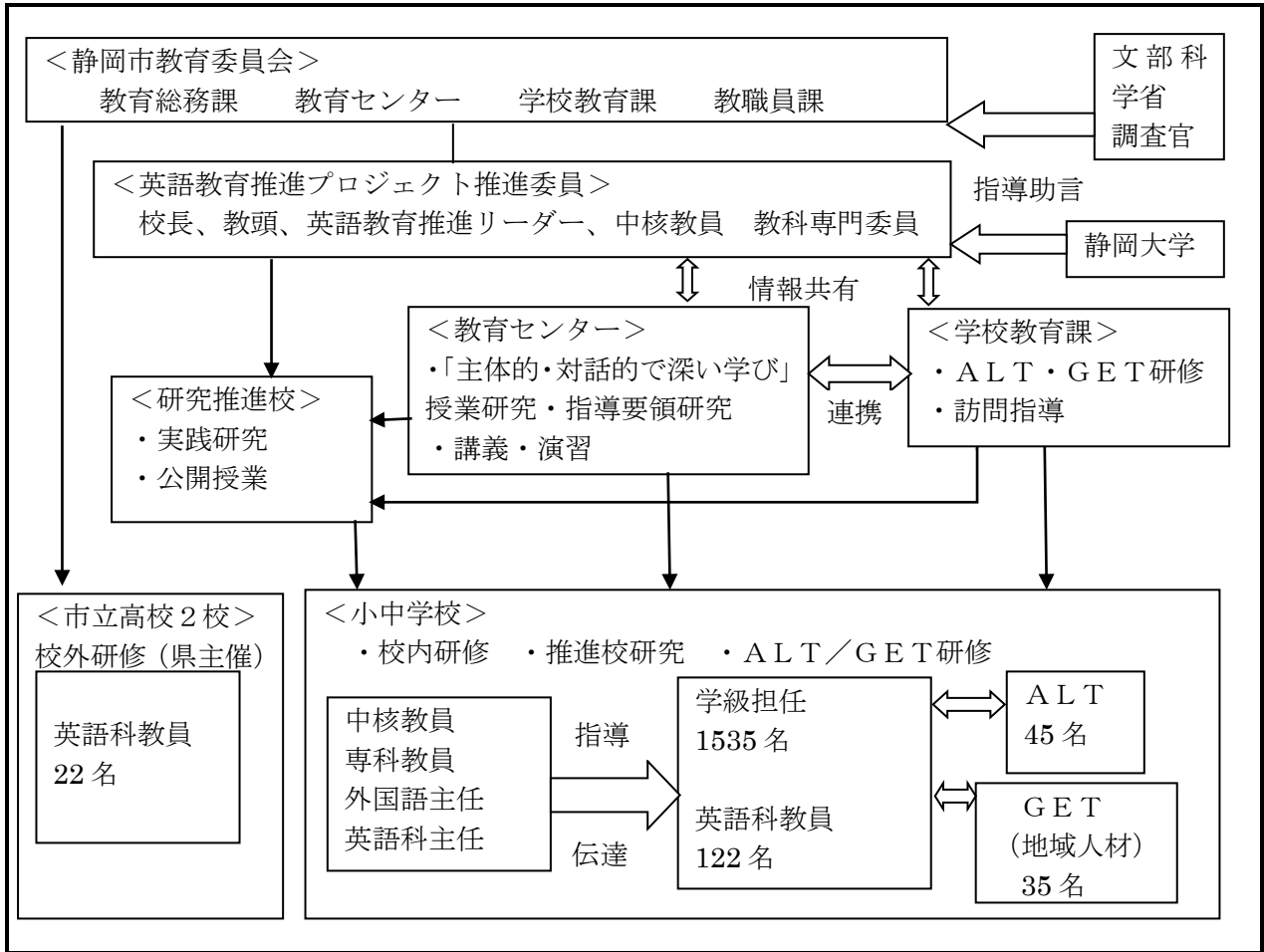


静岡市英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

①求められる英語力を有する英語担当教員の割合

| | | | | |
|--------------|-----|-------|------|-------|
| 2019年度 (達成値) | 中学校 | 35.6% | 高等学校 | 72.7% |
| 2020年度 (目標値) | 中学校 | 38.0% | 高等学校 | 85.0% |

【中学校】海外派遣研修員及び教職大学院への派遣教員（計2～3名）に対して、校長は外部検定割引制度を活用し、英語検定等の資格試験の受験を勧奨する。新規採用者のうち1名は有資格者を採用する。（今後は10年目までの若手教員を中心に、悉皆での資格試験の受験を検討する。）

【高等学校】市立2校の英語担当教師22人のうち、CEFR B2（英検準1級）レベル相当以上のスコア等を取得している者は全体の72.7%で、昨年度より8.2ポイント下降している。教員数が少ないため、年度末異動により有資格者が転出したことが数値へ大きく影響している。新課程や新入試に対応しようとする意気込みをもつ教師は依然として多いので、教師が外部試験を受けるための時間を取りやすい職場環境を整備する。

②求められる英語力を有する生徒の割合（中学校第3学年、高等学校第3学年）

| | | | | |
|--------------|-----|-------|------|-------|
| 2019年度 (達成値) | 中学校 | 41.5% | 高等学校 | 82.0% |
| 2020年度 (目標値) | 中学校 | 48.6% | 高等学校 | 85.0% |

【中学校】生徒の英語学習の意欲向上と学習成果の把握を目的とし、英語検定補助制度事業において、市内中学3年生4600名のうち、1200名分の受験料補助を行う。資格試験受験者数を約6%（270名）向上させ、実際にCEFR A1レベルを取得する生徒数を約3%（140名）向上させる。また、授業ではCEFRに準拠したCAN-DOリストに基づく「指導と評価の一体化」を図り、教員が生徒の英語力を正しく評価し、CEFR A1レベル相当数について把握できるようにする。

【高等学校】求められる英語力を有する生徒の割合は、昨年度比で16.9ポイント上昇した。大学入試への外部試験活用を想定して、各校がGTECを全員受検としたため、生徒のモチベーションも上がったと報告されている。さらに、生徒の英語力を見込みで回答することがなくなり、より正確な現状把握が可能になった。外部試験活用の有無にかかわらず、教師自身が4技能5領域を伸ばす必要性を強調するとともに、キャリア・パスポート等を活用して、PDCAサイクルに基づく生徒の学習習慣の定着を図る。

③「CAN-DO リスト」の形式で技能別に設定した学習到達目標の整備状況（設定・公表及び達成状況の把握等の状況）

| | | | | | | | |
|------|-------------|----|------|----|------|---------|-------|
| 中学校 | 2019年度（達成値） | 設定 | 100% | 公表 | 6.9% | 達成状況の把握 | 88.3% |
| | 2020年度（目標値） | 設定 | 100% | 公表 | 20% | 達成状況の把握 | 100% |
| 高等学校 | 2019年度（目標値） | 設定 | 100% | 公表 | 100% | 達成状況の把握 | 100% |
| | 2020年度（目標値） | 設定 | 100% | 公表 | 100% | 達成状況の把握 | 100% |

【中学校】新学習指導要領及びCEFRに準拠したCAN-DOリストの活用に向け、市が定める様式を改め、例を示すとともに、学校ごとの作成（43校）とホームページでの公表（8校）、達成状況の把握について周知徹底を図る。各種研修会では、パフォーマンステストや定期テスト等の適切な作成方法や実施方法など学習到達達成状況を把握する具体的な方法についても周知する。

【高等学校】県が定める様式に関しては、悉皆研修等で繰り返し作成するため、教師への浸透が深い。様式では達成状況を記載する欄が設けられており、所管の2校ともそれらを活用して「達成状況の把握」を徹底している。公表に関しても、学校ホームページ、シラバス等で生徒及び保護者に周知している。

④授業における、生徒の英語による言語活動の占める割合

| | | | | |
|-------------|-----|-------|------|-------|
| 2019年度（達成値） | 中学校 | 79.4% | 高等学校 | 94.0% |
| 2020年度（目標値） | 中学校 | 88.0% | 高等学校 | 95.0% |

【中学校】2018年度までは、毎年割合は伸びていたが、2019年度には、「言語活動」とは「生徒が自分の思いや考えを伝え合う活動である」と厳密に捉え直したため、全体の割合が下降したと考えられる。ただし、どの学年においても75%程度以上の時間において言語活動を行っている割合は10%近く延びている。英語教育推進リーダーによる研修を通し、受講者一人一人が授業改善の意識を高め、英語による言語活動を通して4技能5領域を指導することが広がってきている。学校訪問や経年研修においても場面、目的、状況を意識した課題設定で言語活動の必然性を意識した授業づくりを求めていく。

【高等学校】授業の半分以上を言語活動が占める割合は前年度比で10.1ポイント上昇した。教師が言語活動の時間を増やすことを意識しながらも、教科書をベースに授業を行っている現状が見える。その一方で、学年が上がるにつれて大学入試を意識した問題演習が増え、英語による

言語活動の時間が少なくなる傾向は否めない。教師による授業のタイムマネジメントを徹底し、言語活動時間を確保するよう努める。

⑤「話すこと」及び「書くこと」における外国語（英語）表現の能力を評価するためのスピーキングテスト及びライティングテスト等のパフォーマンステストの実施状況

| | スピーキングテスト | ライティングテスト |
|-----------------|-----------|-----------|
| 中学校 2019年度（達成値） | 3.1回 | 2.3回 |
| 2020年度（目標値） | 3回 | 3回 |

高等学校

現行課程 スピーキングテスト

| | |
|--------------|------|
| コミュニケーション英語Ⅰ | 8回 |
| コミュニケーション英語Ⅱ | 6.5回 |
| コミュニケーション英語Ⅲ | 0回 |
| 英語表現Ⅰ | 1回 |
| 英語表現Ⅱ | 0回 |

ライティングテスト

| | |
|--------------|-------|
| コミュニケーション英語Ⅰ | 10.5回 |
| コミュニケーション英語Ⅱ | 1回 |
| コミュニケーション英語Ⅲ | 2回 |
| 英語表現Ⅰ | 8回 |
| 英語表現Ⅱ | 5回 |

新課程 スピーキングテスト

| | |
|--------------|----|
| 英語コミュニケーションⅠ | 5回 |
| 英語コミュニケーションⅡ | 5回 |
| 英語コミュニケーションⅢ | 5回 |
| 論理・表現Ⅰ | 5回 |
| 論理・表現Ⅱ | 5回 |
| 論理・表現Ⅲ | 5回 |

ライティングテスト

| | |
|--------------|----|
| 英語コミュニケーションⅠ | 5回 |
| 英語コミュニケーションⅡ | 5回 |
| 英語コミュニケーションⅢ | 5回 |
| 論理・表現Ⅰ | 5回 |
| 論理・表現Ⅱ | 5回 |
| 論理・表現Ⅲ | 5回 |

【中学校】3期に1回程度は、それぞれのパフォーマンステストを実施するよう求める。スピーキングテストについては、ALTを十分に活用し、生徒が英語で自分の思いや考えを伝えることができる場面を設定したい。評価については、評価規準（ルーブリック）を示し、生徒が自らの学習改善につながるよう努める。ライティングについては、全国学力学習状況調査の問題を参考に、定期テスト等の改善を図る。学校訪問や研修会では、より適切なパフォーマンステストの作成や実施方法など具体的な方法について周知していく。

【高等学校】コミュニケーション英語を中心に、パフォーマンステスト評価を定期的実施している。パフォーマンステストの内容は、英検やGTECの形式に類似しており、教師が大学入試を

見据えて指導を行っていることが伺える。科目によって頻度にばらつきがあるが、平均するとスピーキングが3.1回、ライティングが5.3回である。今後はすべての科目において学期1～2回の実施を目指すとともに、適切な評価の方法についても検討を続けていく。

⑥授業における、英語担当教員の英語使用状況

1 単位時間のうち、発話の半分以上を英語で行っている教員の割合

| | | | | |
|-------------|-----|-------|------|-------|
| 2019年度（達成値） | 中学校 | 86.9% | 高等学校 | 66.0% |
| 2020年度（目標値） | 中学校 | 87.0% | 高等学校 | 100% |

【中学校】「授業は英語で行う」ことが基本であるという教員の意識改革が進み、発話の50%以上の割合は増加傾向にある。指導主事による学校訪問では、授業を実際のコミュニケーションの場面とする指導を通して生徒の英語力向上を図った取組について紹介していく。また、英語教育推進リーダーによる講義やモデル授業の公開等を行い、言語活動を通して指導する方法について理解を深めていく。

【高等学校】教師の英語使用割合は1年生の授業が非常に高く、学年が進行するにつれて減少している。3年生になると大学入試に向けた問題演習が授業の大部分を占めることは予想されるが、それでも前年比で23.1ポイント下降という結果は看過できない。教師が生涯教育としての外国語教育を念頭において、学校内でモデルとなる授業を行い、教師間で共有するなどの取り組みを増やす。

⑦研修実施回数、研修受講者の人数

| | | | | | | | | | |
|-------------|-----|-----|------|-----|-----|------|------|----|-----|
| 2019年度（達成値） | 小学校 | 25回 | 630人 | 中学校 | 15回 | 368人 | 高等学校 | 5回 | 12人 |
| 2020年度（目標値） | 小学校 | 26回 | 650人 | 中学校 | 15回 | 410人 | 高等学校 | 6回 | 14人 |

【小・中学校】小学校教員の各種研修会への参加率は40.1%で、年々増加傾向にあり、意識の高さが伺える。校外研修の負担を考慮し、研修会の数は現状のままとし、校内研修の充実や文部科学省作成のYouTube動画の視聴等と呼びかけていく。教員のニーズに合わせた質の高い研修会を設定するとともに、研修推進校や小中一貫校スポット校によるモデル授業公開への参加者数を、小学校は20名増、中学校は約50名増を目指す。指導主事は、小中で求められる授業改善の方向を「授業改善資料」で示し、指導力の向上について一人一人の教員の実践につながるように丁寧に説明していく。

【高等学校】市立高校の教師は、静岡県との協定により、静岡県の総合教育センターで研修を受講している。小中学校教師を対象とする静岡市の教育センターでも、全国的に著名な講師を招聘したり、実践的な研修を増やしたりしている。高校の教員も希望すれば受講できるが、あまり知られていない。管理者として学校訪問時等で周知に努め、授業力向上につなげたい。

⑧新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合

| | | | | |
|-------------|--------------------|---|-----|-----|
| 2019年度（現状値） | 英語資格所有の新規採用者数（小学校） | 計 | 7名 | 10% |
| 2020年度（目標値） | 英語資格所有の新規採用者数（小学校） | 計 | 15名 | 20% |
| 2021年度（目標値） | 英語資格所有の新規採用者数（小学校） | 計 | 20名 | 25% |

小学校外国語教育の早期化、教科化に伴い一定の英語力を有し質の高い英語教育を行える人材を確保するために、教員採用試験において積極的に加点措置等を行う。静岡大学及び常葉大学の学生を対象とした新年度採用説明会では、静岡市が求める教師像の具体について周知する。

また、「しずおか教師塾」の塾生 30 名程度には、英語力向上を目指し外部資格受験を勧奨する。教員養成 2025 年度までに、2020 年度から毎年 5 名増で有資格者を確保し、小学校教諭新規採用者の 50%以上（40 名）が国の示す一定の英語力を有することを達成する。

（加点点措置の例：令和 2 年度採用試験時点）

- ① 実用英語技能検定準 1 級以上
- ② TOEFL iBT 80 点以上
- ③ TOEIC 730 点以上
- ④ 中学校（高等学校）教諭普通免許状（英語）

【小学校専科（英語）】の積極的な配置について

2019 年度（現状値）小学校専科教員 小学校の配置 13 名、中学校の配置 4 名 計 17 名

2020 年度（目標値）小学校専科教員 小学校の配置 21 名、中学校の配置 4 名 計 25 名

（2018 年度は、小学校の配置 7 名、中学校の配置 3 名 計 10 名）

新学習指導要領で目指す「小学校外国語科」の授業実践のために、各中学校区に推進リーダーや中核教員、中学校英語科教員等の優秀な人材を専科教員として配置する。最大 3 校を兼務し、中学校区で同一の指導がなされるようにする。

専科教員が配置された学校のうち、小中一貫教育スポット校や「英語力向上」に力を入れている学校は、公開授業等を通して、全市に優れた実践を広める。

また、専科教員が配置された学校の学級担任は、専科教員が実施する授業を参観するなど、あらゆる機会を捉え、小学校外国語教育についての見識を深めるとともに、専科教員からの指導や助言をもとに、自らの授業実践に向けて準備をする。

（3）研修の体系と内容の具体

教員のニーズに合わせ、質の高い教員育成を目指し、以下のように各種研修会を設定する。

小学校外国語指導に不安のある教員や指導経験の浅い初任者等については、（1）、（2）の研修会への参加を促し、初歩的なレベルから楽しく小学校外国語教育について学び、英語力及び指導力の向上を図る。

指導にある程度の自信のある教員については、（3）、（4）の「授業づくり研修」において、文部科学省教科調査官等から最新の情報を入手し指導助言を得ることで、自らの授業改善に取り組むことが期待される。

推進リーダーや中核教員、専科教員等の各小学校や中学校で指導的な立場にある教員に対しては、校長推薦による（5）、（6）の研修に参加し、公開授業等を通して、静岡市が目指す外国語授業の具体を全市に広めることが望まれる。

さらに、これからの静岡市外国語教育を推進する優秀な人材には、（7）、（8）、（9）の海外研修の機会を与え、英語力・指導力の向上はもちろん、国際的な視野を広げ、「グローバル人材」のモデルとなることが期待される。

また、全ての教員を対象として、（10）、（11）の研修を設定し、個々の指導力の向上と各校の研修の成果を全市に広めることを目指す。（12）では、GIGA スクール構想、一人一台パソコンの使用に向けて、子供たちのコミュニケーション力向上のために ICT を外国語活動、外国語科、英語科の授業でどのように有効活用していくかを研修し、小中教員の指導力の向上を図る。

外部人材（ALT・GET）については、（13）、（14）、（15）の研修への参加を通して、指導力のさらなる向上を図り、学級担任や英語科教員の支援及び児童生徒の有効なコミュニケーションの対象となることが期待される。

- (1) 研修会名 イングリッシュセミナー(教員のための英会話教室)【教育センター・学校教育課】
- ①目的 新学習指導要領全面実施における小学校中学年への外国語活動の導入と高学年の教科化に対応できるよう、小学校教員が英会話力を身につける。
- ②対象者 小学校教員
- ③受講予定者 50名
- ④開催回数 年9回 3回×3期
- ⑤内容 ALTをファシリテーターとした小学校外国語教材に関するテーマトーク(語彙、表現獲得のためのアクティビティ、Small Talkを含む)
- ⑥研修の評価方法 参加者によるアンケート
- (2) 研修会名 小学校外国語活動の授業についての説明会 【教育センター】
- ①目的 新学習指導要領における小学校外国語の授業の目標や活動について講義・演習を行い、中学校英語科の授業との違いを知る。
- ②対象者 小学校初任者・小学校教員を目指す教師塾塾生または大学生
- ③受講予定者 200名
- ④開催回数 2回
- ⑤内容 新学習指導要領における小学校外国語の授業についての講義
- ⑥研修の評価方法 参加者によるアンケート
- (3) 研修会名 小学校外国語活動・外国語科の授業づくり 【教育センター】
- ①目的 小学校外国語教育における「主体的・対話的で深い学び」の具体の姿を求め、移行期間中の外国語活動・外国語科の授業の在り方について、講義と演習を通して理解を深め、日々の授業改善に資する。
- ②対象者 小学校教員・中学校教員・高等学校教員・ALT・GET
- ③受講予定者 150名
- ④期 日 令和2年9月
- ⑤内 容 文部科学省初等中等教育局視学官 直山木綿子氏による講義演習
「全面実施を開始した小学校外国語活動・外国語科の指導、評価のポイント」
- ⑥研修の評価方法 参加者によるアンケート
- (4) 研修会名 中学校英語科の授業づくり 【教育センター】
- ①目的 中学校外国語教育における「主体的・対話的で深い学び」の具体の姿を求め、小中の接続を意識した授業の在り方について、講義と演習を通して理解を深め、日々の授業改善に資する。
- ②対象者 小学校教員・中学校教員・高等学校教員・ALT
- ③受講予定者 150名
- ④期 日 令和2年7月
- ⑤内 容 国立教育政策研究所教育課程調査官 山田誠志氏による講義演習
「新学習指導要領施行に向けての学習の見取り」
- ⑥研修の評価方法 参加者によるアンケート
- (5) 研修会名 英語教育ICT活用委員会、英語教育ICT活用研修I 【教育センター】
- ①目的 子どもたちの英語でのコミュニケーション力の向上のためにICT機器やデジタル教科書(教材)等を効果的に活用した外国語活動、外国語科の在り方について学ぶ。また、指導計画及び教材等を作成し、授業研究を行うことで英語指導力の向上、校内外への情報発信を図る
- ②対象者 小学校教員・中学校教員・高等学校教員
- ③受講予定者 100名
- ④開催回数 年間5回+公開授業1回

- ⑤内 容 講義・演習、授業案検討、公開授業（小学校）、実践事例報告
 ⑥研修の評価方法 参加者によるアンケート

(6) 研修会名 専科教員研修 【学校教育課・教育センター】

- ①目 的 新学習指導要領で目指す小学校外国語教育の在り方について理解を深め、専科教員が自らの役割を自覚し、授業の充実と外国語授業の環境作りに資する。
 ②対 象 者 小学校専科教員
 ③受講予定者 20名
 ④開催回数 5月 11月 年2回+訪問指導
 ⑤内 容 講義・演習
 ⑥研修の評価方法 アンケートによる満足度

(7) 研修会名 短期海外派遣事業 【教育センター】

- ①目 的 多文化共生教育のための国際交流、姉妹都市交流等を行い、青少年の健全育成に寄与する。
 ②対 象 者 小学校教員・中学校教員
 ③受講予定者 1名
 ④実施期間 令和2年7月下旬～令和2年8月中旬
 ⑤内 容 インターナショナルハウスバンクーバーでの語学研修、ホームステイ
 ⑥研修の評価方法 アンケート、外部検定受験

(8) 研修会名 シェルビービル派遣研修 【教育センター】

- ①目 的 姉妹都市であるシェルビービル市（米国）に教員を長期派遣し、英会話能力の向上を図るとともに、国際的視野を身に付けさせ教員の資質向上を図る。また、現地の社会との交流を図り、姉妹都市交流の一翼を担うこと。
 ②対 象 者 小学校教員・中学校教員
 ③受講予定者 1名
 ④実施期間 令和2年8月下旬～令和3年3月上旬
 ⑤内 容 現地小中高校に勤務、ホームステイ
 ⑥研修の評価方法 アンケート、外部検定受験、事後報告会

(9) 研修会名 ストックトン市教員派遣研修 【教職員課】

- ①目 的 姉妹都市であるストックトン市（米国）に教員を短期派遣し、英会話能力の向上を図るとともに、国際的視野を身に付けさせ教員の資質向上を図る。また、現地の社会との交流を図り、姉妹都市交流の一翼を担うこと。
 ②対 象 者 小学校教員・中学校教員
 ③受講予定者 1名
 ④実施期間 令和3年9月下旬～令和3年10月（隔年での実施）
 ⑤内 容 現地小中高校で訪問指導、ホームステイ
 ⑥研修の評価方法 アンケート、外部検定受験、事後報告会

(10) 研修会名 教科指導力向上研修（小学校外国語と中学校英語科）【教育センター】

- ①目 的 教科・領域別の授業の参観、事後研修を含めた授業研究を通して、教職員として授業改善及び教科指導力を図る
 ②対 象 者 小学校教員・中学校教員・高等学校教員
 ③受講予定者 300名
 ④開催回数 3区 小中各3回 計18回
 ⑤内 容 指導案検討、公開授業、協議会
 ⑥研修の評価方法 参加者によるアンケート

- (11) 研修会名 小中一貫外国語・英語研修（近隣校要請訪問）【教育センター・学校教育課】
- ①目的 同地区小・中学校の英語に係る教員が育てたい子供の姿のイメージを共有し、系統性意識した外国語教育の授業改善を図る。
- ②対象者 小学校教員・中学校教員
- ③受講予定者 100名
- ④期 日 年2回程度
- ⑤内 容 （中学校区内外国語担当教員による）指導案検討、公開授業、研究協議
- ⑥研修の評価方法 参加者によるアンケート
- (12) 研修会名 英語教育ICT活用研修Ⅱ～GIGAスクール構想を見据えて～【教育センター】
- ①目的 GIGAスクール構想を見据えて、子供のコミュニケーション力向上のために、外国語活動、外国語科、英語科の授業でICTをどのように有効活用できるかを研修することで、授業改善に資する。
- ②対象者 小学校教員・中学校教員、高等学校教員
- ③受講予定者 100名
- ④期 日 令和3年2月
- ⑤内 容 講義・演習
- ⑥研修の評価方法 参加者によるアンケート
- (13) 研修会名 グローカルイングリッシュティーチャー（GET）研修会【学校教育課】
- ①目的 地域人材GETの勤務や役割について明確にし、学級や学校でのサポートのイメージを具体的にもつことで、より効果的な関わりがもてるようにする。
- ②対象者 英語が堪能な地域人材40名
- ③開催回数 年6回＋訪問指導
- ④内 容 講義・演習（役割、サービス・配置校について、授業づくりの基本 など）推進リーダーによる模擬授業、授業見学、ALTとGETカフェ（英会話や指導法の協議）
- ⑤研修の評価方法 アンケートによる満足度
- (14) 研修会名 グローカルイングリッシュティーチャー推進校研修会【学校教育課】
- ①目的 小学校5、6年生の外国語授業において、GETを活用した実践研究を行い、全市に優れた活用事例を広める。
- ②対象者 小学校教員、英語が堪能な地域人材
- ③受講予定者 110名
- ④開催回数 年4回＋訪問指導
- ⑤内 容 講義・演習 授業案検討、公開授業、研究協議、授業モデルづくり
- ⑥研修の評価方法 参加者によるアンケート
- (15) 研修会名 ALT研修 【学校教育課】
- ①目的 ALTの役割や勤務形態を理解し、小学校学級担任や中学校英語科教員とのスムーズな連携、授業での効果的なサポート法、パフォーマンステスト支援について学ぶ。
- ②対象者 小中高ALT45名
- ③開催回数 年12回＋着任時研修＋長期休業期間研修
- ④内 容 講義・演習、グループ協議、相互参観研修、訪問指導、SDC研修への参加（JET-ALTのみ）
- ⑤研修の評価方法 アンケート調査（英語教育実施状況調査のALT活用についての項目）

(4) 年間事業計画

| 月 | 研修会等の取組 | 外部専門機関等 |
|-----|--|--------------------------------|
| 4月 | GET研修①②③④ GET推進校研修① ALT研修① 英語プロジェクト委員会 外国語担当者会 | 静岡大学 |
| 5月 | 専科教員研修会① ALT研修② 英語教育ICT活用委員会① | |
| 6月 | GET・専科訪問指導 イングリッシュセミナー1-① 教科指導力向上研修専門委員会(小中) ALT研修③ 英語教育ICT活用委員会② | |
| 7月 | イングリッシュセミナー1-② GET・専科訪問指導 ALT研修④ 短期海外派遣事業 英語プロジェクト委員会 英語科授業づくり研修 | 海外派遣者 文部科学省 |
| 8月 | イングリッシュキャンプ2日間 ALT研修⑤新規ALT研修 | |
| 9月 | イングリッシュセミナー1-③ 英語発表会 外国語活動・外国語科授業づくり研修 GET推進校研修② 英語教育ICT活用委員会③ 教科指導力向上研修専門委員会(駿河区小、清水区小、葵区中、駿河区中) ALT研修⑥ | 静岡大学・常葉大学 文部科学省 静岡大学 |
| 10月 | GET研修⑤ イングリッシュセミナー2-① 教科指導力向上研修専門委員会(葵区小、清水区中) ALT研修⑦ 教科指導力向上研修(駿河区小、清水区小、葵区中、駿河区中) | |
| 11月 | 教科指導力向上研修(葵区小、清水区中) GET推進校研修③ 英語プロジェクト委員会 イングリッシュセミナー2-② ALT研修⑧ 専科教員研修会② 英語教育ICT活用委員会④ | 研修推進校 |
| 12月 | ALT研修⑨ イングリッシュセミナー2-③ GET研修⑥ GET推進校研修④公開授業 英語プロジェクト委員会 | 研修推進校 |
| 1月 | 教科指導力向上研修専門委員会(全区小中) GET面談指導 イングリッシュセミナー3-① 英語教育ICT活用研修I(授業公開) | 静岡大学 |

| | | |
|--|--|--|
| | A L T 研修⑩ | |
| 2月 | 英語教育 I C T 活用研修Ⅱ イングリッシュセミナー 3-② A L T 研修⑪ 英語担当者会 | |
| 3月 | イングリッシュセミナー 3-③ A L T 研修⑫ | |
| 【その他の取組】 <ul style="list-style-type: none"> ・姉妹都市海外派遣（中高校生） ・イングリッシュデイ・カフェ（小中学校） ・英語キャンプ（小中学校） ・英語発表会（高等学校） ・英語スピーチコンテスト（高等学校） | | |

| | |
|-----------------|----------|
| 都道府県等 教育委員会名 | 静岡市教育委員会 |
|-----------------|----------|

※表中、斜線部は記入不要。計画段階では目標値のみ記入。

| 校種 | No. | 指標内容 | 2018 | | 2019 | | 2020 | | 2021 | | 2022 | | |
|-------|-------------------------|-----------------------------|---------------|--------------|------|------|------|-------|------|------|------|------|----|
| | | | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | |
| 高等学校 | ① | 求められる英語力を有する英語担当教員の割合 (%) | 57% | 81% | 85% | 73% | 85% | | 85% | | 85% | | |
| | ② | 求められる英語力を有する生徒の割合 (%) | 62% | 65% | 70% | 82% | 85% | | 85% | | 85% | | |
| | ③ | 学習到達目標の整備状況 | 設定 (%) | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | | 100% | | 100% | |
| | | | 公表 (%) | 50% | 50% | 100% | 100% | 100% | | 100% | | 100% | |
| | | | 達成状況の把握 (%) | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | | 100% | | 100% | |
| | ④ | 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合 (%) | 73% | 83% | 90% | 94% | 95% | | 95% | | 95% | | |
| | ⑤ | パフォーマンステストの実施状況 | ○スピーキングテスト(回) | コミュニケーション英語Ⅰ | 5回 | 15回 | 3回 | 8回 | 5回 | | 5回 | | |
| | | | | コミュニケーション英語Ⅱ | 18回 | 6.5回 | 3回 | 6.5回 | 5回 | | 5回 | | 5回 |
| | | | | コミュニケーション英語Ⅲ | 8回 | 0回 | 3回 | 0回 | 5回 | | 5回 | | 5回 |
| | | | | 英語表現Ⅰ | 7回 | 2回 | 3回 | 1回 | 5回 | | 5回 | | 5回 |
| | | | | 英語表現Ⅱ | 0回 | 0回 | 3回 | 0回 | 5回 | | 5回 | | 5回 |
| | | | | 英語表現Ⅲ | 0回 | 0回 | 3回 | 0回 | 5回 | | 5回 | | 5回 |
| | | | ○ライティングテスト(回) | コミュニケーション英語Ⅰ | 6回 | 6回 | 3回 | 10.5回 | 5回 | | 5回 | | 5回 |
| | | | | コミュニケーション英語Ⅱ | 4.5回 | 5回 | 3回 | 1回 | 5回 | | 5回 | | 5回 |
| | | | | コミュニケーション英語Ⅲ | 9.5回 | 5回 | 3回 | 2回 | 5回 | | 5回 | | 5回 |
| 英語表現Ⅰ | | | | 7.5回 | 5回 | 3回 | 8回 | 5回 | | 5回 | | 5回 | |
| 英語表現Ⅱ | | | | 2回 | 1.5回 | 3回 | 5回 | 5回 | | 5回 | | 5回 | |
| 英語表現Ⅲ | | | | 0回 | 0回 | 3回 | 0回 | 5回 | | 5回 | | 5回 | |
| ⑥ | ○スピーキングテスト(回) | 英語コミュニケーションⅠ | | | | | | | | | | 5回 | |
| | | 英語コミュニケーションⅡ | | | | | | | | | | 5回 | |
| | | 英語コミュニケーションⅢ | | | | | | | | | | 5回 | |
| | | 論理・表現Ⅰ | | | | | | | | | | 5回 | |
| | | 論理・表現Ⅱ | | | | | | | | | | 5回 | |
| | | 論理・表現Ⅲ | | | | | | | | | | 5回 | |
| | | ○ライティングテスト(回) | 英語コミュニケーションⅠ | | | | | | | | | | 5回 |
| | | | 英語コミュニケーションⅡ | | | | | | | | | | 5回 |
| | | | 英語コミュニケーションⅢ | | | | | | | | | | 5回 |
| | | | 論理・表現Ⅰ | | | | | | | | | | 5回 |
| | | | 論理・表現Ⅱ | | | | | | | | | | 5回 |
| | | | 論理・表現Ⅲ | | | | | | | | | | 5回 |
| ⑦ | 英語担当教員の授業における英語使用状況 (%) | 82% | 89% | 100% | 66% | 100% | | 100% | | 100% | | | |
| ⑧ | 英語担当教員に対する研修実施回数 | 3回 | 4回 | 5回 | 5回 | 6回 | | 6回 | | 6回 | | | |
| | 研修受講者数 | 8人 | 10人 | 12人 | 12人 | 14人 | | 14人 | | 14人 | | | |

| 校種 | No. | 指標内容 | 2018 | | 2019 | | 2020 | | 2021 | | 2022 | | |
|-----|-------------------------|-----------------------------|--------------|-------|-------|-------|-------|------|------|------|-------|------|--|
| | | | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | |
| 中学校 | ① | 求められる英語力を有する英語担当教員の割合 (%) | 30% | 32.1% | 35% | 35.6% | 38% | | 40% | | 42% | | |
| | ② | 求められる英語力を有する生徒の割合 (%) | 46% | 37% | 47.3% | 41.5% | 48.6% | | 50% | | 50%以上 | | |
| | ③ | 学習到達目標の整備状況 | 設定 (%) | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | | 100% | | 100% | |
| | | | 公表 (%) | 10% | 4.7% | 20% | 6.9% | 20% | | 50% | | 100% | |
| | | | 達成状況の把握 (%) | 50% | 86% | 90% | 88.3% | 100% | | 100% | | 100% | |
| | ④ | 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合 (%) | 85% | 85.7% | 86% | 79.4% | 88% | | 90% | | 90% | | |
| | ⑤ | パフォーマンステストの実施状況 | スピーキングテスト(回) | 3回 | 2.7回 | 3回 | 3.1回 | 3回 | | 4回 | | 4回 | |
| | | | ライティングテスト(回) | 3回 | 1.6回 | 3回 | 2.3回 | 3回 | | 3回 | | 3回 | |
| ⑥ | 英語担当教員の授業における英語使用状況 (%) | 75% | 79.3% | 80% | 86.9% | 87% | | 90% | | 95% | | | |
| ⑧ | 英語担当教員に対する研修実施回数 | 12回 | 14回 | 15回 | 15回 | 15回 | | 15回 | | 15回 | | | |
| | 研修受講者数 | 300人 | 371人 | 400人 | 368人 | 410人 | | 430人 | | 430人 | | | |

| 校種 | No. | 指標内容 | 2018 | | 2019 | | 2020 | | 2021 | | 2022 | |
|-----|-----------------|-------------|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|
| | | | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 |
| 小学校 | ① | 学習到達目標の整備状況 | 設定 (%) | | | | 20% | | 50% | | 100% | |
| | | | 公表 (%) | | | | 20% | | 50% | | 100% | |
| | | | 達成状況の把握 (%) | | | | 100% | | 100% | | 100% | |
| ② | 小学校教員に対する研修実施回数 | 23回 | 26回 | 26回 | 25回 | 26回 | | 26回 | | 26回 | | |
| ③ | 研修受講者数 | 600人 | 629人 | 650人 | 630人 | 650人 | | 680人 | | 700人 | | |

| 独自 | No. | 指標内容 | 2018 | | 2019 | | 2020 | | 2021 | | 2022 | |
|-----|-----|---|------|-----|------|-----|------|-----|-------|-----|-------|-----|
| | | | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 |
| 小学校 | ① | 外国語でコミュニケーションすることが楽しいと感じている児童の割合 (%)【各区GET抽 | 80% | 88% | 89% | 96% | 96% | | 96%以上 | | 96%以上 | |